

第 2 3 回厚生常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	平成 2 7 年 3 月 6 日 (金曜) 午前 9 時 3 0 分		
	休憩時間 9:43-9:55		
	午前 1 0 時 1 3 分		
会議場所	役場 3 階 第 1 委員会室		
出席委員 氏 名	委員長 岡崎榮太郎	委 員 吉田 敏郎	議長 広瀬 重雄
	副委員長 高橋 仁美		
	委 員 高橋 源		
	委 員 唯野 義勝		
説明等に 出席した 者の氏名			
事務局職員	局長 西科 純	次長 剣持 和裕	

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明し、審査を行う。

2 議 件

(1) 審査事項

ア 陳情第 3 0 号「年金積立金の安全かつ確実な運用に関する意見書」の提出を求める陳情」
について

・委員長： 陳情文書表を基に資料等を参考に審査する。

意見交換

・唯野委員： 願意は妥当と考える。年金積立金管理運用独立行政法人の年金運用は、国債比率を足すと現在 70%であるが、今後は 60~40%になるとのことである。安全かつ確実というのであれば、外国債はリスクを伴う。年金は市場経済に左右されるものであってはならない。陳情者の意図するところに共感するものである。

・吉田委員： 記書の 1 の年金積立金は、構成年金保険法の規定に基づき、長期的な観点から安全かつ確実な運用を堅持するという点は当然のことであり、年金積立金管理運用独立行政法人が財テクにより年金財源を確保することは、日本経済にとってはいいかもしれないが、長期的には問題が生じる可能性はある。運用失敗の際のルールも明記されていない。失敗した場合の責任は誰も取れない。リスクの高い方法を選択することには反対である。

- ・高橋（源）委員：株式をみると危険性が高い。陳情文書の記書はそのとおりである。
- ・高橋（仁）委員：年金積立金管理運用独立行政法人の収益額ではマイナス9兆円や5兆円となる年度がある。リスク性の高いものであり、責任を誰も取れない。失敗のツケは年金受給者に回ってくる。

意見交換

- ・高橋（源）委員：意見交換で話した内容をもって賛成討論とする。

採決

- ・採択すべきものとして賛成委員の挙手→挙手全員
- ・委員長：陳情第30号は採択すべきものと決定する。

陳情審査報告案及び意見書文面、及び陳情書に基づく意見書案

- ・高橋（仁）委員：報告書の重複箇所を削除すべき。
- ・委員長：重複箇所を削除して原案のとおり決定とする。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について

- ・正副委員長に一任する。

(2) その他

- ・事務局長：①3月9日の本会議（追加案件）について
②意見交換会の対応整理について
③政策提言の調整について
④委員会評価について

以上をもって、委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----

記載のとおり報告する。

平成27年3月6日

厚生常任委員会委員長 岡崎 榮太郎